

平成23年度
第4回新川和江賞
～未来をひらく詩のコンクール～

表彰式・詩の朗読

と き:平成24年2月12日(日)

ところ:結城市民情報センター3階多目的ホール

ごあいさつ

結城市はユネスコ無形文化遺産にも登録となった結城紬をはじめとする伝統的な地場産業と古くから受け継がれた文化が根付いている歴史と文化の街でございます。この歴史と文化を継承していくのは、他でもない、未来を担う子供たちだと考えられます。

そのような中、「新川和江賞 未来をひらく詩のコンクール」は、平成20年度に結城市民情報センターとゆうき図書館の開館5周年を記念する事業として、詩人である名誉市民新川和江先生の名を冠して創設され、詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図り、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の健全育成に寄与することを目的に開催をしております、今年で4回目を迎えております。

この度、新川先生よりコンクールに先立ち、素晴らしい石像を寄贈していただきました。この可愛らしい石像を見ていると、すべての子供たちが、心豊かに、やさしい気持ちをもった大人になって欲しいという先生の思いがこめられているように感じます。ここに心より御礼を申し上げますとともに、その思いが子供たちに届くことをご祈念申し上げます。

さて、今年度のコンクールですが、市内在学・在住の小・中・高校生を対象に募集いたしましたところ、1,529点もの多くの作品の応募をいただきました。これもひとえに関係者の皆様の深いご理解と詩を愛する気持ちの賜物と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品は毎年いずれも力作ぞろいで、選考にはご苦労されたと同っております。受賞されました皆様には心よりお祝いを申し上げますとともに、残念ながら選に漏れました皆様も、今後ますます詩に関心を持たれ、来年も応募していただきますことをご期待いたしております。

皆様が、詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日を過ごされますことを願いごあいさついたします。

平成24年2月12日

結城市長 前場 文夫

ご挨拶

昨年の春いらい、3・11と言っただけで、また耳にただけで、黒い魔物の舌のような大津波が、人家を、漁船を、住民を呑みこんで押し流して行く地獄のような光景が、まぶたの裏によみがえります。大地震、大津波、それに続く原発事故——。被害に遭われた東北地方の方々ばかりでなく、それは、日本じゅう、世界じゅうの人々を、今尚おびやかし続けています。

そうした恐れや不安をいっばいに抱えながらも、ご自分をはげまし、平常心を取り戻し、例年よりもさらに力のこもった作品を書いて、こんなにも多くの皆さんが、〈未来をひらく詩のコンクール〉に応募してくださいましたことに、私は、大感激をしております。おかげ様で、つつがなく第四回の新川和江賞をお贈り出来る運びとなりました。

いつも申し上げることですが、全国規模のコンクールに二万、三万と寄せられる作品に、まさるとも劣らないすぐれた作品が、結城市だけに限定した小・中・高の皆さんによって書かれていることが、私の驚きであり、声をあげて日本じゅうに伝えたいほどの、大きな喜びであり、誇りです。大都市に生れて育った子供たちが、持つことの出来ない豊かな自然や、ひとつ屋根の下にお年寄りも一緒に暮らす家族構成、大地が与えてくれるお米をはじめとする五穀、野菜、どっさりの果実……。吹く風からも、流れる水からも、そうして夜空の星からも、ことばを聞きとることが出来る敏感な感受性や、素朴で、優しくあたたかい心は、そうした環境から生れ出たものなのでしょう。

各学校の先生方、このコンクールをすこやかに育てようとしてくださっている市の関係者の皆さま方に、あつくお礼を申しあげ、これからもどうぞよろしく、とお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成24年 2月12日

新川和江ニ

次 第

日時 平成24年 2月12日(日)
午後 2時より
場所 結城市民情報センター
3F多目的ホール

●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞 29名）

●感謝状贈呈

●第1部 表彰式

- 1 開式のことば
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 表 彰
- 5 作品朗読 新川和江賞 1名
優 秀 賞 7名
- 6 閉式のことば

●第2部 詩の朗読

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

石

結城東中学校2年 藤野里菜

☆優秀賞

まいご

江川北小学校1年 稲葉龍星

わたあめ

絹川小学校1年 山本愛莉

今日の世界

上山川小学校6年 須藤真希

花

結城西小学校5年 根津奈央

時を追いかける

結城中学校2年 ちゃむはが

イトカワの考えごと

結城中学校3年 諸拓視

君と花火と電車

結城第二高等学校2年 小森谷美咲

☆優良賞

| | | | |
|------------------------|---------------------|----------------------|-------------------|
| じえっとこうすたあ 江川北小学校 1年 | あかおぎ まい 赤荻 舞 | はじまりの朝 結城中学校 2年 | おがた みさき 緒方 美咲 |
| おいかけっこ 江川北小学校 1年 | えんどう しゅり 遠藤 朱莉 | 空の顔 結城中学校 2年 | よしかわ よしみ 吉川 吉美 |
| お天気 江川北小学校 2年 | いしじま あずさ 石嶋 梓 | 体内散歩 結城中学校 3年 | いわさき なおと 岩崎 直人 |
| ぼくのゆめ 江川南小学校 1年 | くぼ や ともかず 久保谷 智一 | 雑草 結城中学校 3年 | おちあい ひろき 落合 浩暉 |
| 川がおこっている 上山川小学校 3年 | おおた ひでゆき 太田 嗣教 | 走る 結城中学校 3年 | ながつか はるな 永塚 晴奈 |
| あり 絹川小学校 1年 | ながせ たける 長瀬 岳留 | 素直な気持ち 結城中学校 3年 | みのわ あゆみ 三野輪 歩実 |
| 3がつ11にち 城西小学校 1年 | いじま なつみ 飯島 菜摘 | 命の不思議 結城東中学校 2年 | かきのき ももこ 柿木 桃子 |
| こころ 城西小学校 6年 | いなば ゆうき 稲葉 友紀 | 丘の向こうには 結城東中学校 2年 | みすかわ のどか 水川 和 |
| くつ 城西小学校 6年 | すすき こうた 鈴木 晃太 | 水泳 結城南中学校 1年 | いしざき みか 石崎 未夏 |
| タイムマシンに乗って 城南小学校 4年 | いけだ まなと 池田 真透 | むすび 結城南中学校 1年 | さわだ りさ 澤田 里佐 |
| 緑のカーテン 山川小学校 5年 | あくい ちひろ 阿久井 千紘 | FAX 結城南中学校 1年 | すすき なな 鈴木 菜々 |
| じいちゃんとわたし 結城小学校 2年 | すすき さき 鈴木 紗希 | アサガオ 結城南中学校 2年 | みやた ひろき 宮田 裕貴 |
| シャボン玉 結城小学校 5年 | はしもと ゆうか 橋本 悠可 | なでしこの花 結城南中学校 2年 | やまなか みほ 山中 美穂 |
| くもりの空 結城小学校 6年 | こめや かとれん 米矢 花渡連 | 月ノ涙 結城第二高等学校 2年 | わたなべ なみ 渡辺 奈美 |
| 僕の気持ち 結城中学校 2年 | おおたか ひろこ 大高 弘子 | | |

☆ 新川和江賞 ☆

石

結城東中学校二年 藤野 里菜

全ての石を「石」と呼びけねど

石だってそれぞれ違う

流れの急な川の底でころころころ

道ばたを歩く人々にけられ、ころころころ

ころがってく場所も、形も、大きさも違う

丸いもの

角ばっているもの

小さなもの

大きなもの

中くらいなもの

色んなものがある

たくさんたくさんころがって

けずれても

欠けても

どんなに小さくなったって

色んな場所をころころころ

一生懸命ころがって他とは違うものになっていく

ころころころころ

ころころころころ

全ての石を「石」とよびけねど

石だってそれぞれ違う

流れの急な川をころころころ

道ばたを歩く人々にけられころころころ

でも、どんなにころがされたって

一生懸命ころがっていく

そうして自分だけの形になっていくんだね

短評

流れの急な川底で、誰にも知られず川下へところどころがって行く石ころや、道ばたで人にけられても、だまって痛みを耐えている石ころ。そうした地味な題材に目をとめておられる点に、感心しました。バラや百合のように華やかではありませんけれど、石ころはその小さな体の中に、億年のいのちを秘めているのです。重くてつらい詩になるところですが、〈ころころころく〉という擬態語が、効果的に使われていて、たのしくはずんだリズムを作り出しています。私たち人間もまた、同じように鍛えられて、〈自分だけの形〉に個性が作られて行くのでしょうか。同じ詩句が二箇所に使われていますが、意味を強調するため、詩だけに許される手法（書き方）です。

☆優秀賞受賞作品

今日の世界

上山川小学校六年

須藤 真希

今日 植物の芽が出てきた

日本中で 世界中で

今日 出てきた芽は

いくつあるのだろう

今日 コップがわれた

日本中で 世界中で

今日 われたコップは

いくつあるのだろう

今日 新しい命が産まれた

日本中で 世界中で

今日 産まれた命は

いくつあるのだろう

日本中で 世界中で

今 私と同じことを考えている心は

いくつあるのだろう

短評

目の前の小さな出来ごとや情景から、日本じゅうばかりではなく、世界じゅうにも起っているであろう同じ小さな出来ごとや情景に、思いをひらき、感じるものが、なまなまはびこる。二連など、コップのわれる音が、すすやかな音楽のよう。世界じゅうで鳴るひびくようです。とこの形式もおもしろいです。結びの二行に、世界中の人の心が、あたたまるのを感じます。

花

結城西小学校五年

根津 奈央

お水を下さい。

私は、自分で水をかける事が出来ません。

お日様に当たって下さい。

私は、日の光が大好きです。

栄養を下さい。

あなたの為に、うんときれいな花を咲かせたいのです。

話しかけて下さい。

あなたのそばで、長く咲き続けられるように。

私は、いつか枯れてしまうでしょう。

でも、悲しまないで下さい。

あなたの為に、私はたくさんの種を残しましょう。

私に優しくしてくれたように、大切に育てて下さい。

あなたの庭が、花であふれ、あなたにずっと笑顔でいて欲しいから。

短評

根津さんは、やさしい方なのです。鉢植えの花になり代って、いろいろとお願いをしています。人の足音を聞くと、庭木や草花は元気になる。聞いたことがあります。「話しかけて下さい」とこの詩の中の花も、言っています。根津さん自身の思いの深さが表れているのは、いつかは枯れて行く花に、「たくさん種を残しましょう」と言わせているところです。終連がとくにすばらしい。

☆優秀賞受賞作品

時を追いかける

結城中学校二年

チャムハガ

時は君を待たない
だから人は
時と一緒に進まなければならない
でもときには
いろんな事情によって
一つの時間で
二つのことをやらなければならない
たとえ違う国に行って
違うことを習い
違う時間を追いかけ
やっと追いついたと思った瞬間
まだ違う時間を追いかけるなければならない
もう疲れた
でもここで休んだら
もう二度あいつを追いかけることが
できないかも・・・

短評

私は、日本の時間ばかりでなく、世界各国の時間を同時に知るこ
とが出来ると時計を持っていますので、チャムハガさんのなやみが、
わかるような気がします。時間というものに対する考え方、とらえ
方が、日本人とはちがう多重構造になっていて、そのために複雑な
なやみも生じてくるのでしょうか、一種の豊かさだと、思うことに
いたしました。へ疲れたくなびとおっしゅらす、いへつもの時
間を追いかけてください。

イトカワの考えごと

結城中学校三年

諸 拓視

私はイトカワである
少し前に私は体の一部を削られたが
それについて疑問に思ったことがある
私の体が削られたことに意味はあったのか
もちろんただの星である私には分からない
私は情報は大切だと思う
私がいるこの場所について私は知りたい
ニンゲンはそれをがんばっているのだから
だから
私の体が
少しでも私の体に有力な情報があり
この場所について分かったら
私のところに来て教えてほしい
それを願って百年でも二百年でも待とう

短評

イトカワは三年に一度ぐらいのわり合いで、地球に接近してくる
といわれている小惑星。探査機「はやぶさ」がその天体の微粒子を
持ち帰ったために、エッヘン、わがはいは地球に情報を提供してい
るのと、言わんばかなりの口調が、おもしろい。それならそれで、持
ち帰った微粒子の検査の結果を知らせるのが、情報化時代の礼儀と
いうものじゃないかと、イトカワになり代って諸くんは、言っ
てあげているのです。イトカワも、さびしいのです。

☆優秀賞受賞作品

君と花火と電車

結城第二高等学校二年

小森谷

美咲

夜の帰りの電車の中

ゴトン、ゴトンと鳴る車輪の音が

私の心の音にゆっくり重なっていく

時折聞こえてくる

踏み切りの音に鼓動が跳ね上がる

またあの日を思い出して涙が溢れた

花火の音 君の微笑み

なんだか線香花火より眩しくて

いつの間にか君の話す声を必死に拾って

知らない間にもう電車の時間

君との帰り道 段々近づく駅のホーム

押さえてた気持ち

一気に溢れ出しそうになった

改札を過ぎてホームに入る瞬間

できるだけ近くに居たくて

らしくないこととして結局

自己嫌悪に溺れ

落ち込むくせに体が動くの

電車が来る一分前

離れていくのが悲しくて

気持ちが先走って

想いが滴になって静かに頬を伝った

伝えたいの 伝えられたら

小声で君の傍で呟いた

「君が好き」



セندانの木

短評

高校生ともなれば、ああ、青春！ 恋の季節です。花火の夜、並んで花火を見上げながら、思いを告げられないままにきてしまう帰りの電車の時間。駅まで一緒に歩いてきて、ホームに立ち、別れの時刻が迫っているのに、まだ告げられない。相手には届かぬ小声で、呟いただけ。「君が好き」と。

電車が揺れるたびにその夜のせつなさを思い出し、涙が溢れるのですね。過ぎてみれば、それもまた、ああ、青春！ すてきな思い出になりますよ、美咲さん。

☆優良賞受賞作品

うさぎのうた

江川北小学校二年 赤荻 舞

わたがはうさぎのうたがたね。
たのしからたね。
だんだんあがってうさぎは、
ちやうどうさぎ、
おさなうさぎ、
めっちゃたのこ。
かぜがかおとめたってうさぎはたのこ。
まわりのまがわってうさぎ。
うさぎのうたがたねうた。
うさぎのうたがたねうた。

おきなうた

江川北小学校一年 遠藤 朱莉

おきなうた うさぎのうたが
みつけたよ
まんまる おおきな おおきな
わたがうさぎ うさぎのうたが
わたがうさぎ うさぎのうたが
おきなうた うさぎのうたが
あがうさぎは うさぎの
あがうさぎは うさぎの
うさぎのうたが
うさぎのうたが おおきなうた
まんまる おおきな おおきな
あがうさぎ うさぎのうたが
うさぎ うさぎのうたが

☆優良賞受賞作品

お天気

江川北小学校 三年

石嶋 梓

外であそぼうと思ったら

きゆうにたくさんのお

ポトン ポトン

ザーザー

「まだまだ やまないよ。」

雨じぶぼうやがあばわてる。

お家の中であそぶとくら

ばあつとあかるくなつて

ピカ ピカ

キラ キラ

「おまたせしました。」

おひさまがにっこりわらうつ。

晴れた空は、

七色のじがでた。

「じがちは。」

じがやあつていって来た。

ほのめめ

江川南小学校 二年

久保谷 智一

ほのめめ

じかにじかにいおまひ

あすしやさんになりたいな

じかにじかにじかにじかに

さっかーせんしゅになりたいな

じかにじかにじかにじかに

ばすけつせんしゅになりたいな

いろいそなりたいものがある

おあまひなつたらななにな

たぐさん たぐさんかんがえよ。

☆優良賞受賞作品

川があじうてる

上山川小学校三年 太田 嗣教

ぼくの家の前には川が流れてる
足首くらいの深さで、魚やザリガニがたくさんいるけれど
な川だ。
夏は友達と水遊びをするのが持がい。
だからこの前の台風のときは川はかわかった。
茶色の水がどんどんと流れて、川は濁って茶色になった。
二メートルくらいの深さになった。
ばあちゃんの大切な店に水が入った。
ぼくの家も水びたしになっちゃったのかな。
川があじうてるおもしろいかわかった。
しょうぼうだんのおじさんの車で学校へ行った。
帰ってきたら水は半分くらいになってたけれど、色は茶色
のままだ。
魚たちはどうしてるのかな。
大切に育てたから、おもしろいかな。
ごみのせいで川が汚れてたけど。

あじ

綿川小学校一年 長瀬 岳留

おもしろだね
おおきな おおきな せみのはね
ぼくが もつてあげようか
あじもってあげようか
そっとおびてしまえたい
あじもってあげようか
ぼくが もつてあげようか
ぼくは せんせんおもしろいのに
もつてあげようか
まだ おもしろいけどまだ
がんばれ あじ
ぼくが あじもつて
みてあげようか

☆優良賞受賞作品

3がしにち

城西小学校一年 飯島 菜摘

3がしにち、すいおおまなごしんが来た。
ほしくおあそびでいたよ、
じめんがおおきくゆれた
ひなごくんねんでれんしゅうしたとおの
みんなごくえのしたにかくれた
ママがすくもかえにきてくれて
おうちへかえったらでいいでんしていた
パパはなかなかかえってこなかった
いつもはーじかかんらいで
かえってこれるのよ、あのひはのじかんも
かけてかえって来たんだって
でんきがついてテレビをみたり
とうほぐがたいへんなことになってた
おおきなつなみがきたんだって
くおまやおおまなね
おしんもながれでしてた。
うしむわくになった
あのひはわたしのおたんじょうびだったの
みんなにおいわいしてもらいたかったけど
ひなごくんせうかしてごめん
ひこのいよをおもったり
がまんしようとおもった
ごころのいよをわらわら
ごころなると

11111

城西小学校六年 稲葉 友紀

11111は11111あるのだから
11111はむねのあたり11111あるのではないうか
なぜなら切ない事や悲しい事があった時にむねのあたりがチク
チクと痛むから
うれしい事や楽しい時にもむねのあたりがあったかくなりポカ
ポカする
11111がよろこんだり悲しんだり私の体と11111は一緒になっ
て反応する
11111を豊かにするためたくわんの経験を11111も11111の
大きな人間でいたい
そっと思っ
私の11111は11111もむねのあたりで成長を続けている

☆優良賞受賞作品

く

城西小学校六年 鈴木 晃太

ぼくは、くしの気持ちを考えた
ぼく、よみたくした
くしははかなくていいし
ぼくもなんだかうれいな

ぼくは、くしの気持ちを考えた
ぼく、よみたくした

新しいくしをはかなくていいから
ぼくもなんだかさみしいな

ぼくは、くしをみかいてみた
ぼく、よみたくした
なんだかおもしろいみたいだよ
ぼくもおもしろいかな

くしの気持ちははかみだ
明日もくしの気持ちをみかいて

タイムマシンに乗って

城南小学校四年 池田 真透

タイムマシンは絶対に作れないって聞いたことがある。
だってだれも未来から来た人を見たことがないから。
でもぼくはタイムマシンはあると思った。
だって人間が考えつくものは必ず作れるって聞いたことがあるから。

もし、タイムマシンを一度だけ使えるようになったら、いったいぼくはどこへ行くのだろう。

未来へ過去へ。
きょう童を見てもいいし、戦国時代にも行ってみたい。

未来の自分も見てみたい。
なやむなやむなやむ。
やっぱり、子供のころのパパとサッカー対決しよう。
あー！
もしかしたら、だれも気づかないだけで、未来からの見物人は、そのあたりを歩いてるのかもしれない。

ぼくがいないだ試験をしたあの子は、未来のぼくの子どめだったのさ。

ぼくの心だけはもうタイムマシンに乗ってさ。

☆優良賞受賞作品

緑のカーテン

山川小学校五年 阿久井 千紘

ゴーヤに朝顔 へちまにひょうたん
いろいろな 緑のカーテン

南の空を向きながら
夏のひざしと戦いながら
すずしい風を通してくれる
お部屋の温度を下げてくれる
ありがとう 緑のカーテン

南を向けば緑の実やむらさきの花が見える
バッタが止まっている
ちようちようも花にとまっている
見るだけで楽しいな
すごいぞ緑のカーテン

あと少しで夏も終わりだけど
まだまだ暑いのでたよりにしています
緑のカーテン

じいちゃんわだし

結城小学校二年 鈴木 紗希

春 大きな地しんの時
じいちゃんが学校までむかえに来てくれた
たくさんゆれてこわかったけど
じいちゃんを見たらあんしんしたよ

夏 じいちゃんのはだけでじゃがいもほり
大きいのが小さいのがたくさん出てきた
じいちゃんの作ったじゃがいも
ほくほくしてとってもおいしかったよ

秋 うんどう会
かけっこのじゅんばんが回って来た
どきどきしてたらじいちゃんの大きな声
「そきーがんばれー！」
はしるのちよっとおそかったけど
おうえんはーとうしょうだったよ

冬 まめまき
じいちゃんと家中に
たぐりたぐりまめをまいたよ
「おじはそよぶくはうち」
おこったじいちゃんとおじさん
どっちのほうがかわいかなっ

じいちゃん大すき
じいちゃんわだし
じいちゃんわだし
じいちゃんわだし

☆優良賞受賞作品

シャボン玉

結城小学校五年 橋本 悠可

いやな事があった
シャボン玉をふいた
いやな気持ち
シャボン玉の中でふくらんだ
それでも
シャボン玉は
明るいにじ色になって
飛んで行った
いやな気持ちも
「パン」とわれた
うれしい事があった
シャボン玉をふいた
うれしい気持ちが
シャボン玉の中でふくらんだ
シャボン玉のにじ色は
いつもより明るく見えた
うれしい気持ちのシャボン玉は
楽しそうに上がって行って
「パチン」とわれた
まるで笑っている声のように
わたしは
シャボン玉が、とつても好き
いやな事があった時
うれしい事があった時
大人になっても
ふけるかな

くもりの空

結城小学校六年 米矢 花渡連

くもりの日もいいものよ
光に目がくらまず
すてきな景色を
ながめると心がきんぱらひ
幸せの光にうつつまわらば
しあわせのまぶらぐれに
かぐわしくまじませ
きこえぬ
だからちよつとの
悲しみもいいもの
雨の日を
よびよせしめるよ

☆優良賞受賞作品

僕の気持ち

結城中学校二年 大高 弘子

僕は毎日毎日

ラケットに打たれている

パーン、パーン

リズムよく鳴る音にのって

僕はラケットの上を飛びはねている

でもたまに落ちたり、飛んでいったり…

ラリーが続くと

僕はけっこう忙しい

トランポリンの上をはねるよつこ

スピードが速くなったり、回転したり

だから、僕がいなくて

バドミントンはつまらない

でも、そのことを

みんなは気付いていないのかな

まあどうせ

僕は毎日楽しくていいかな

はじまりの朝

結城中学校二年 緒方 美咲

小鳥の歌声で夢からさめる

ああ、きっと空は晴れているんだろつな。

昨日は空が泣くから、とても静かだった。

そつとカーテンをひらくと

「おはよう」つて、木々がさざやいた。

まぶつて、目を細めた。

夜明けと共に、昨日の悲しみを全部、

連れていってくれたから…

朝はこんなにも透明なのかな。

「なんつと起きよう」

朝の風が、そつ言つて笑つた。

今日が、はじまりの朝。

今日も、大切に生きよう。

☆優良賞受賞作品

空の顔

結城中学校二年 吉川 吉美

春の空はやわらかく笑っている
風寝している子猫を見つめながら
梅雨の空はしくしく泣いている
ゲロゲロ、かえるの合唱を聴きながら
夏の空はキラキラ楽しんでいる
子ども達の笑い声を聞きながら
秋の空は静かにほほえんでいる
鮮やかな紅葉に目を細めながら
冬の空はすっきりしている
百八つの鐘の音に耳を澄ませながら
そっしてまた空は笑う
私達を見つめながら

体内散歩

結城中学校三年 岩崎 直人

夕方六時。
僕はすいはん器の中。
たき上がったアラムがなったから
もう少して扉が開くはずだ。
第一のアトラクション、しゃもじでまぜられる。グルグル目が
まわった。
お茶わんにもまれて、さあ出発。口に入った。僕の体がバラバ
ラになり、ブドウ糖に変わる。
食道を通って胃へ。胃の中はこんでいて息づかい。まあしょ
うがないまわりのみんなも感じていることだろう。
まだまだ小さくなって小腸へ。ここで僕の養分はすべて取られ
る。
僕の栄養で明日も元気ががんばれ！

☆優良賞受賞作品

雑草

結城中学校三年 落合 浩暉

心が痛い
まただめだった
これ以上どうすればいいと言っただ

ちゃんと花は咲かせた
小さくて

地味で
質素で

可愛い気のない花だけ

僕の存在意義はちゃんと示したんだ

なのにどうして僕は笑われてしまっただろう
なのにどうして僕は見向きもされないんだろう

するとそこに「彼女」が歩いてきた
いつも通り過ぎていく「彼女」は今日初めて僕の前で立ち
どまった

「彼女」は僕を見ていた

僕を見てなにがおもしろいんだと言いたかったがそれより

先に「彼女」は

にっくす

優じやない

口元をほころばせた

走る

結城中学校三年 永塚 晴奈

走った
永遠に続く檜田の道を
一人さびしく
速く 速く

走った
永遠に続く草原の上を
悲しさを押し殺すように
前へ 前へ

ある時
永遠が怖くて
一人が怖くて
足を止めた
永遠の上で泣き崩れた

一人じゃないよ 永遠じゃないよ
空から 地から 聞こえてきた
そつだ
一人じゃないんだ

ゴールのない永遠の道なんてないんだ
誰かが私を待っている

走っている
今にも心臓が悲鳴をあげそうなくらい
もう迷わない
前へ 速く
あのゴールに向かって

☆優良賞受賞作品

素直な気持ち

結城中学校三年 三野輪 歩実

あの日 私は変わった
私の世界はすっかり色あせてしまった
朝起きるのも 学校へ行くのも
勉強をするのも 自分の興味も
おっくうで辛くて全てが楽しくなくなった

真っ暗ななか 重い足取りで
どうしてこうなってしまったのだろう？
という後悔と
どうして私なの？
という怒りがうずまぐ目の前の今だけを
必死になって生きてきた

ある雨の日 一匹のかえると出会った
それは 毎日毎日同じ場所について
いつも 一匹だった
「君も独りなんだね」
私はそっと話しかけた
返事は ない
いつまで待っても 返事はない
ただ じつとどこかを見つめているだけ

そのとき ほほに何かがあった
これは 涙なんだ
そつ気がついたとき 全身の力が抜けた
そして わかった
私は 自分に嘘をついていた
後悔と怒りにすっぱりとかくされていた
本当は独りで寂しかった素直な気持ちに
あの日 私は変わった

命の不思議

結城東中学校二年 柿木 桃子

赤ちゃんが 泣く
小さな手足を バタバタさせて
小さな顔は シワくちやで 真赤だ
生まれてきたばかりの 赤ちゃんが
だれも 教えないのに
体 全体から しほり出すような
大きな 大きな声で 泣く
赤ちゃんが 眠る
小さな バンザイをして 眠る
口もどが
ほんの少し笑ったように見える
ギュッと握った手が ピクピク動く
昨日まで お腹の中にいた 赤ちゃん
今日は お母さんの隣で
泣く 眠る 笑う
命って 赤ちゃんて
不思議 不思議
ほんとうに 不思議

☆優良賞受賞作品

丘の回廊には

結城東中学校二年 水川 和

風がそよよそよと吹いています
草も花も風に寄りそってゆねています
草も花も気持ち良さそうです
ゆらゆらゆねています
わたしもこの広い母のような大地で
ゆらゆらと静かにゆねています

わたしだっけとすっかりとだっている木で
あなただっけと立派な大きな木
みんなかっこいい木なのに
小さな枝が折れるだけでへこんでしまう
そんなとき、「大丈夫よ。」と
優しくなぐさめてくれる風
包みこんでくれるような大地
あたたかく見守っていてくれる太陽の光
わたしは何だか胸がホッとした
こんなにも気持ちよくなる場所に

水泳

結城南中学校一年 石崎 未夏

青く輝く水の中
水しぶきが上がる
それは小さな噴水のように
ザバザババシャッ
どんどん進む
泳いでいく

太陽の光に照らされて
ゆるやかな波におおわれて
前におしよせるように
進んでいく
すきとおった水の中
何も音が聞こえない
音のない世界で
水をおしよける
くらくらとくらくら...

長いけれど短い時間
短いけれど長い時間…
そんな時間の中で
いつの間にか
私はゴールしていった

☆優良賞受賞作品

むすび

結城南中学校二年

澤田 里佐

むすかしい
なぞのような
ちよつむすび
でも本当は
すんじょ
ほじける
ちよつむすび
はなやかに
だれかを待ってる
ちよつむすび

FAX

結城南中学校一年

鈴木 菜々

FAXは
どこまでも どこまでも届くように
遠いところの
おじいちゃん おばあちゃん
大切な友達 だれにでも
自分の思いをのせた
ぎっしり書かれた
一枚の紙
突然消えてマジックのように
いろんなところを流れていく
でも 必ず思いは届いてくる
うれしことだって
悲しいことだって
感動することだって
なんだって届く
なぜならFAXは
みんなの幸せを運ぶ
魔法の宅急便だ

☆優良賞受賞作品

アサガオ

結城南中学校二年

富田 裕貴

夏休みの朝

庭に植えてあるアサガオを見ると

アサガオのつるは

右に曲がったり

左に曲がったり

くねくね回ったり

横を回いたりしている

けれども最後には

空に向かってのびていく

まるで僕の人生のようだ

僕の夢も

右を回いたり

左を回いたり

下を回いたりして

なかなかきままらない

でも必ず

夢(太陽)に向かって

のびていくんだろっな

なでしこの花

結城南中学校二年

山中 美穂

なでしこ 花咲かす 勝利の

花を満開に咲かした きれいな花

日本を元気にした 美しい勝利

勝利の花は 私の心も

きれいにした 新しい心に

いつまでも くさげてる花

そんな花では やっていけない

明るくさわやかに 咲く花

私の心も 明るくさわやかに

生きていこう なでしこの花のよう

小さくても 大きな夢をもち

がんばって勝つ なでしこ

私も悩みに勝つ 幸せ探するため

私もなるんだ なでしこの花に

☆優良賞受賞作品

月ノ涙

結城第一高等学校二年

渡辺 奈美

月だって泣くんだよ

いつも明るく

照らしてるわけじゃない

その小さい明かりは

いつもみんなのために

照らしている

当たり前にあるものだと

だけど

いつも誰も知らない所で

泣いている

いろんな表情をしながら

いつも隠している

心に陰りが射したときは

いつも雲が隠してくねる

でも、本当は――

ありのままでもいいじゃないって思う

そんな雲なんかで

隠れたい

誰かは気付いてくねるだろうか？

言葉もなくただただ

照らすしかない私に

それでも私は

小さく闇を照らす

いつか誰かに

気付いてもらうため

いや、嫌い

私は私らしくいたい

どんな困難があっても

自分らしく輝いていたい

だから私は今日もまた照らし続けるんだ

『第一部』

○センドンの木の集い

詩を書く人、書かない人、どなたでも心を開いての語らいの中で、豊かなひと時を一緒にどうぞという新川先生のお心と、先生が母校のセンドンの木への思い出を大切にすることを思い、全国から先生をお慕いしている人たちでつくられた集いとのことでした。

なお、新川先生の詩の朗読は、前回に引き続き二回目となります。

○ボイスフレンド

ボイスフレンドは、朗読ボランティアサークルとして平成四年に、市の広報や書籍などを録音して視覚障害者へお送りするなどを目的につくられたとのことでした。

花の名

新川和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつじー



えにしだ

こぶし はなみずき

そして むくろ



花の名をいうときには

この春やっど

ひらがなを覚おぼえたちいさな妹が

やわらかな鉛筆えんぴつで

一字書いては

うれしげににっこりするよひに

わたしは発音はつおんするのです

やはり ひらがなで

